

平成 22 年度 理事名簿

理事長：梶山
副理事長：丸、門倉
庶務：内田
会計：石川
広報（機関誌・ホームページ）
：富岡、前田、小川、小原
監事：吉川、石橋
編集委員会：森、野中、米山
研究委員会：内田、小原、塩飽、丸
教育委員会：梶山、浅田、竹之内、小川
将来計画委員会（NPO 法人化、事業展開）
：丸、塩飽、前田、梶山、門倉
国際交流委員会：丸、梶山



夏の恒例となりました、小児がん看護研修会のお知らせをいたします。今年は「小児がん患者の症状マネジメント（1）一嘔気・嘔吐」をテーマとして、嘔気・嘔吐をきたしている患者に対して、薬剤の選択や生活への援助をよりエビデンスに基づいたものになるよう、そして子どもたちの生活の質の向上につながるような学習の機会にしたいと考え企画しました。会員の皆様には、プログラムと振込用紙が既にお手元に届いていると思います。事前申し込みは、8月20日（金）までです。是非、周囲の方もお誘いいただければ、と思います。

記

テーマ：小児がん患者の症状マネジメント①一嘔気・嘔吐
日 時：2010年8月28日（土） 9:30～16:30

場 所：国立成育研究医療センター

9:30- 実践報告

実践報告① 東邦大学医療センター大森病院 看護師
実践報告② 神奈川県立こども医療センター 看護師

10:50- 講義

- 「化学療法に伴う嘔気・嘔吐の機序」と「嘔気・嘔吐の支持療法」神奈川県立こども医療センター医師 田渕健先生
- 「化学療法に用いる薬剤の嘔気への薬理作用」と「制吐剤の薬理作用・機序など」千葉県がんセンター薬剤師 浅子恵利先生

3. 「嘔気・嘔吐のアセスメント」と「嘔気・嘔吐の生活への影響と援助」成田赤十字病院看護師 宮田幸子先生
以上

SIOP2010 へのお誘い

今年度の国際小児がん学会（42th International Paediatric Oncology Conference）は、2010年10月21日（月）～24日（木）ボストンで開催されます。詳細につきましては、学会 HP をご確認ください（<http://www.siopboston2010.com/>）

世界各国からのナースたちが看護実践を報告、小児がん看護における教育や研究についても発表し、意見交換を行います。さらに、教育講演、医師との合同セッション、当事者や親の会との合同セッションも計画されます。Children's National Center Washington D.C.での研修を含むAコースは、10月16日（土）成田発、学会参加のみのBコースは10月21日（木）成田発で、いずれも帰国は10月26日（火）午後成田着で、2コースを計画しました。個人的な希望も含めて、お問い合わせ、お申し込みはグローリアツーリストへご連絡ください。

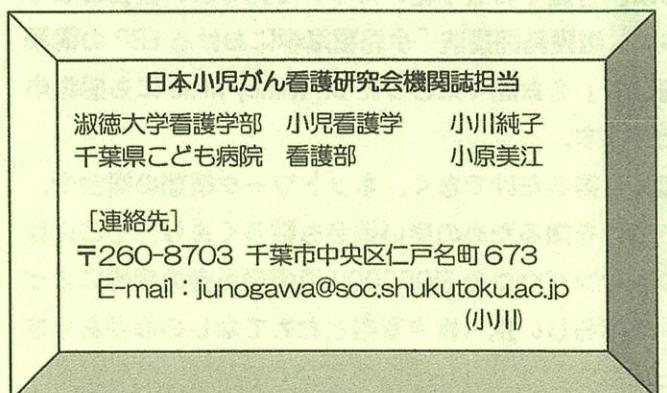
Tel: 03-3363-3326 Fax: 03-3361-3149 携帯: 090-6501-5064
(e-mail) t-watanabe@gloria-t.co.jp 担当: 渡辺敏彦

尚、SIOP2011 は10月25日～30日の日程で、New Zealand の Aukland で開催される予定です。

第34回APHONカンファレンスのお知らせ

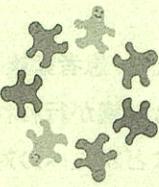
第34回米国小児血液腫瘍看護学会議（The 34th Association of Pediatric Hematology/Oncology Nurses Conference）が、2010年10月14日～16日、ミネアポリス（ミネソタ）にて開催されます。抄録締め切りは1月12日です。臨床に役立つ教育セッションが多い会議ですので、会員の皆様、是非ご参加ください。

(HP:<http://www.aphon.org>)



NPO 法人 日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing
— JSPON —
News Letter Vol.11



果が望めない時」

4. 医師と看護師の合同セッション：「子どもの苦痛を和らげるケア
一口腔から栄養まで」

5. 3学会と守る会のシンポジウム：「子どものワクワクを作る
療養環境」

さらに、口演・ポスターでの演題発表と多彩な内容を企画し、皆様の期待に応えることができるような学会にしたいと努力しております。

今年の締めくくりは、大阪国際会議場で、会員方はもちろん、会員でない方も誘い合わせて、学会での充実した時間と、アフターは会場周辺の中之島と御堂筋のプレクリスマスをお楽しみください。多数の参加を心よりお待ちしております。

学術集会ホームページ <http://www.congre.co.jp/jspn-jspo2010/>

第8回日本小児がん看護学会

来る12月17日（金）から12月19日（日）まで、大阪にて第8回日本小児がん看護学会を開催します。昨年同様、日本小児血液学会、日本小児がん学会、がんの子供を守る会と共に学会を行います。

演題登録は、7月26日（月）で終了いたしました。登録者は、共同演者も含めて本学会の会員となっております。新規会員の方は、8月15日（日）までに、入会手続きを完了させてください。会員番号が届きましたら、学術集会運営事務局（e-mail: jspo2010@congre.co.jp）までご連絡下さい。また、会員の方も8月15日（日）までに、今年度の会費の納入をして下さい。

入会手続きは、日本小児がん看護学会ホームページ <http://www.jspn.com> をご参照ください。

開催期間 2010年12月17日～19日

（看護のプログラムは18日（土）・19日（日））

開催場所 大阪国際会議場 10F・12F

全体のテーマ 『叡智の結集－過去、現在、そして未来へ』

看護のテーマ 『がんの子どもと家族に寄り添う支援』

看護プログラム

- 特別講演：「聴くことの意味（仮）」鷲田 清一氏（大阪大学総長）
- 教育講演：「思春期のがんの子どもの心を育むケア－臨床心理からのアプローチ」
- ワークショップ1：「すすめよう きょうだい支援」
- ワークショップ2：「小児がん看護におけるコミュニケーション－治療効

ーお詫びと訂正ー
「小児がん看護」Vol.5 2010が、6月に発行されました。一部に誤りがありましたので、お詫び申し上げ、修正をお願いします。

ー目次ー

（誤）住吉知子 （正）住吉智子

「小児がん看護」編集委員会

(早田典子氏)、患者家族(遠藤洋子氏)の5名による発表の後に、総合討議が行われました。10代患者に何をどこまで話すのかなど本人への対応の問題と同時に、医療者自身の不安等、率直で具体的な発表が続きました。本人の意思を見極めながら情報提供することの重要性が強調されながらも、支える立場にある家族の精神面への理解や支援が重要であることや、残された同病患者やその家族へのグリーフケアについて課題が提示されました。

教育講演では小児専門看護師の平田美佳氏が、子どもの人権に配慮した英国の小児がん看護の実際について、小児病院の実践事例を豊富な写真をもとに具体的に解説されました。

拓殖大学工学部の岡崎章氏による教育講演「子どもの視点から見た小児がん治療」では、心に働きかけるデザインの視点が多彩かつ詳細な分析に基づくことに驚かされ、小児がん患者と家族の精神面を支援する私たちには、これ以上の細やかさが求められていることに気付かされました。

参加型ワークショップの「実践！緩和ケア」では、兵庫県立大学の三宅一代氏が、症状緩和の1つとしてハンドマッサージについて、経絡や小児がん患者事例をもとに解説され、参加者も配布されたハンドクリームを用いてその心地よさを実感しました。同じく「Bad Newsの伝え方」では、医師、臨床心理士、看護師（順に斎藤正博氏、西尾温文氏、込山洋美氏）の発表の後、フロアとのディスカッションが行われました。活発な質問やコメントが寄せられ、予後不良時に限らず、患者家族にとってのBad Newsとは何かを考えるきっかけとなっただけでなく、様々な局面での対応について理解が深まるものとなりました。（文責：丸光恵）

(昨年度は、会員の皆様に学会抄録集を送付しましたので、発表演題の紹介は、省略しました。)

九州山口小児がん看護研修会の報告

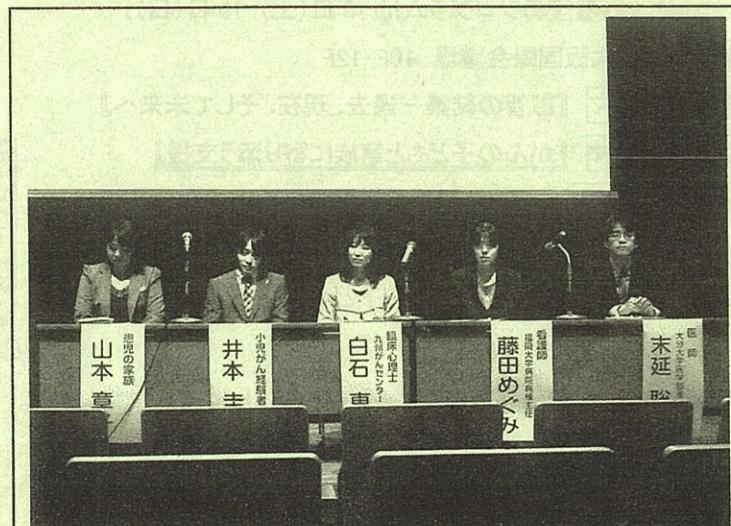
平成22年3月20日(土)、大分県別府市(別府国際コンベンションセンター)で九州山口小児がん看護研修会を開催いたしました。テーマは「病気や病状についての説明」で、当日の参加者は66名でした。

午前は、鹿児島大学医学部の河野嘉文先生による「小児がん治療の病状説明と小児専門医療の役割」、九州がんセ

ンターカンガルーハウスの三輪富士代先生による「小児がん患児と家族、取り巻く人々への説明に関する看護師の役割」についての講演がありました。これまでの先生方の臨床での経験や研究をもとに、臨床での様々な出来事や事例を具体的にとりあげて、実際の医療現場での取り組みやその際の子どもや家族の状況、そして今後求められるケアについてお話を頂きました。

午後は「病気や病状についての説明」をテーマに5人のシンポジストを迎えてシンポジウムを開催しました。医師の立場から大分大学医学部の末延聰一氏、看護師の立場から福岡大学病院の藤田めぐみ氏、臨床心理士の立場から九州がんセンターの白石恵子氏、小児がん経験者の立場から井本圭佑氏、小児がんの患児の家族の立場から山本章子氏に、それぞれのお立場から「病気や病状についての説明」に関して、臨床ではどうようなケアが提供されているのか、どのようなことが課題となっているのか、患児や家族はどうなことを体験し、どのようなケアを求めているのかをお話して頂きました。その後、研修会参加者との活発な討議が行われました。

小児がんで療養生活をおくる子どもやその家族が、病気や病状について正しく理解し主体的な生活が送れるよう支えるケアの必要性をあらためて実感するとともに、そのことに向けての適切な援助方法について検討する機会となりました。なお、本研修会では、科研費基盤研究 B「小児がんの子どもと家族を中心とする多職種協働チームの看護師支援プログラムの開発」(研究代表者：内田雅代) の一部を使用しました。(文責：宮崎史子)



++++++

昨年度のサンパウロでの SIOP の報告が、看護師グループの SIOP News Letter に掲載されていましたので、皆様にもご報告します。

~ SIOP News Letter ~

2009年サンパウロでの会議報告

サンパウロで開催された SIOP における看護プログラムは非常に意義あるもので、世界 17 力国を代表して 157 名のナースが参加しました。参加者はみな最新の知識を得、これからのかの看護の実践と研究に役立つヒントをたくさん貰いましたし、将来の SIOP 看護プログラムのさらなる充実について考えを得たのではないかと思います。

SIOP 看護部委員会、Patti Byron、Faith Gibson、Rachel Hollis、Margaretha Norbris は、参加した全ナースを代表して、Andrea Kurashima と Debora Bassi の指揮の下に ブラジルの仲間の皆さんのが温かいもてなしとすばらしい企画をしてくださったことに、心から感謝の意を表します。

看護プログラムの中にはたくさんの興味ある話題がありました。ICCPOとの「緩和ケア」をテーマとしたジョイントセッションでは、Dr. Javier Kane、Dr. Joanne Wolfe、Janet Duncan、Marie-Jose Pullesが非常に考えさせられる発表をされました。ラウンドテーブル・セッションでは今回もまた盛ん議論が交わされ、それらの意見を共有、吟味する話し合いとなって、好評を得ました。展示ホールで行われたポスターセッションでは、発表者と直接話し合うことができて、看護における必須の知識を得るとともに、各国での取り組みについて知るよい機会となりました。看護基調講演「小児腫瘍学におけるEBPの構築に向けて」をお話くださったDr. Nancy Klineにも感謝申し上げます。

知識を得るだけでなく、ネットワーク構築の機会や、広い世界を知るために良い機会も数多くあり、そこにはいつもサンパウロのSIOP2009準備委員会の皆様によって、すばらしい食べ物や音楽とおもてなしの心がありました。

SIOP2010は、ボストンで2010年10月21日-24日に開催されます。その準備がBarbara Cuccoviaと

Kathleen Houlihan の指揮の下、着々と進められております。2010 年 10 月、再び皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

近日中に、SIOP2010への抄録募集と SIOP の 2 つの
グループーSIOP Advocacy Council (SIOP 推進協議会) お
よび Education and Training Task Force (教育訓練委員会)
に関する詳細をお知らせします。両グループ共にナース
の代表者が参加し、看護の将来に向けた目標と活動につ
いて盛んに検討しています。

平和で喜びに満ちた休日をお過ごしくださいますよう
心からお祈り申し上げます。

Patti Byron
Chair SIOP Nurses Group
On behalf of the entire Nurses Group
pbyron@cw.bc.ca

+++++
理事会より

〔平成 21 年度会計報告〕

〈収入の部〉

項目	決算額(円)	内訳
会員年会費	2,165,000	260名 (新入会173名)
賛助会員会費	20,000	
事業収入	554,370	研修会
寄付金	3,702,025	小児がん看護学会より
雑収入など	46,611	
計	6,488,006	

〈支出の部〉

項目	決算額(円)	内訳
事業費	1,885,025	学術集会、抄録発行、学会誌発行、ニュースレター、広報活動など
管理費	774,378	
計	2,659,403	

收入	6,488,006
支出	2,659,403
收支	3,828,603